福祉フォーラム通信

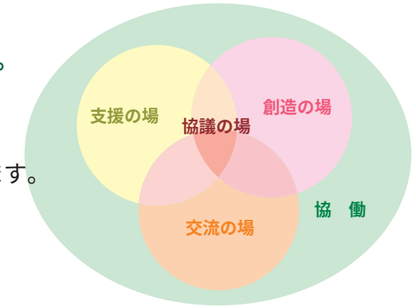
新創刊 vol.1

発行日：2007年3月10日
発行元：龍谷大学福祉フォーラム

龍谷大学福祉フォーラムは、社会のすべての構成員がみな等しく、生き生きと人間らしいくらしができる地域づくりのために、「福祉」という切り口から、地域住民、当事者、くらしやいのちにかかわる専門職、学生、NPOなどの市民セクター、行政セクター、企業セクターなど多様な立場の人々がつどい「協働」していく場です。そして、地域福祉やまちづくりに関心をもつ人々とともに、「共生」をキーワードに21世紀の新しいまちづくりを考えていきます。

具体的には、次のような4つの「場」を提供します。それぞれの「場」をどうつくっていくのか、どのような内容にするかは、フォーラムに参加されるみなさんとともに考え、話し合って方向を出していきます。

○協議の場 ・・・ 知恵を出し合い「まちづくり」や必要な活動の方向を定める。
○交流の場 ・・・ ネットワークを形成する。
○創造の場 ・・・ 新しい取り組みを創り出す。
○支援の場 ・・・ 専門職やNPO、市民活動をささえる。



この4つの「場」はそれぞれが互いに作用しあい、
関わり合いながら「場」としての広がりと深まりをもっていきます。

龍谷大学福祉フォーラム会長
（理工学部教授） 大柳　満之

福祉フォーラム通信の再刊にあたって

龍谷大学は、1998（平成10）年に社会学部地域福祉学科および臨床福祉学科の設置を機に、学内外の諸機関と共同して新たな「福祉コミュニティづくり」を創出することを目的に、個人・法人会員制の福祉フォーラム事業を開始しました。この10年の間、人々のくらしやいのちに直接関係するような社会問題がますます増加してきました。また、より深刻なくらしの問題を抱える方やくらしの場である地域を巡る様々な課題が鮮明に浮上し、社会問題の側面からいろいろな取り組みがさらに必要になってきています。なかでも、渇いた心に潤いを注ぎ込めるような地域・社会の形成は重要な課題といえましょう。

龍谷大学福祉フォーラムは、10周年を迎えるに先立ち、これらの課題を背景にした時代の要請に応えて、社会のすべての構成員にとって必要な地域づくりを目指すために、多種多様な人々の交流を通じて、心のふれあいと情報交換、人材育成、そして共に活動に取り組みたいと考えております。

そこで、このたび福祉フォーラムの諸活動の一つとして「フォーラム通信」を再刊することにいたしました。この通信を通じて、フォーラムの事業や内容を広くみなさまにお伝えすると同時に、地域の暮らしや福祉に関心のある方々の交流を図りたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

事業概要

オータム・フォーラム（年に1回）開催

講演会やシンポジウム、ワークショップ、実践報告などを多彩に組み合わせ、
テーマにもとづいて2日間にわたって開催します。

◎2007年度は9月に実施予定です。
◎対象は、地域住民・当事者・専門職・学生などで、どなたでも参加できます。
◎参加費：福祉フォーラム会員2,000円、一般5,000円、龍谷大学学生1,000円

公開講座の実施

2007年度は年に2回（前期・後期、各5回程度）、社会問題や社会福祉課題について具体的なテーマを取り上げて公開講座を実施します。

◎参加費（予定）：福祉フォーラム会員・REC会員5,000円、一般7,500円、龍谷大学学生5,000円
◎定　員：前期30名・後期30名程度

研究会の開催

福祉フォーラム会員を対象に研究会を開催します。

◎会員は本学教員と協力して、あたらしい研究会を組織することができます。
　また、多様な人々との協働を広く創り出していくとともに、
　「専門職の交流の場」や「社会福祉現場で働く人の会」の組織化を進めていきます。

情報発信・交流

HPを通して、研究会の活動や各種イベント等の情報を発信していきます。
また、「フォーラム通信」を刊行して、研究会の概要や福祉に関する最新の研究などを紹介していきます。

個人会員入会のご案内

福祉フォーラムは会員制の組織です。
参加ご希望の方はご入会をお願いいたします。

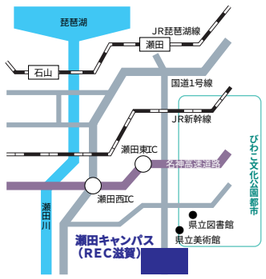
●年度会費／2,000円
●お申し込み方法／ホームページから手続き、または
　福祉フォーラム事務局までお問合せください。
　参加手続き完了後、会員カードを発行いたします。

会員特典

1）フォーラム事業（講座、オータム・フォーラム等）に会員割引価格にて参加できます。
2）本学教員と協力して、新しい研究会の企画や運営に関わることができます。
3）福祉フォーラムの各種事業案内、またRECコミュニティカレッジのパンフレットを無料でお送りいたします。
4）フォーラム通信を送付いたします。
5）龍谷大学図書館（深草・大宮・瀬田）を利用できます。

お問い合せ

龍谷大学福祉フォーラム事務局（REC滋賀）
〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5
TEL:077-543-7744　FAX:077-543-7771
●URL：http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/fukushi
●E-mail：rec@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp



●JR琵琶湖線「瀬田」駅下車（JR京都駅より16分）
　帝産バス「龍谷大学」行き（約8分）
●名神高速「瀬田西IC」（大阪方面から）
　「瀬田東IC」（名古屋方面から）より
　文化ゾーン方向へ車で約5分　【駐車場有】

講演会とシンポジウム
「現代社会における共生と自立」

去る2006年12月9日（土）、龍谷大学瀬田学舎（滋賀県）において、講演会とシンポジウム「現代社会における共生と自立」を開催いたしました。当日は、あいにくの雨模様の天候にもかかわらず、地域住民・福祉関係者・龍谷大学生など約300名の方にご参加いただき、盛況のうちに終了いたしました。

講演会とシンポジウムの様子

交流会の様子

第1部 講演会 「現代社会における共生と自立」
～いのちと向き合う・まちと向き合う～

（午後1時30分～2時45分）

講師　高橋卓志さん　（長野県神宮寺住職・長野県NPOセンター代表）

▶高橋さんは、まず、今日のテーマは「閉じる」から「開く」にあると言われた。「いじめという集団の自傷行為」が起こっている閉塞した時代に、社会の中でそれぞれのいのちがしなやかに、軽やかに受け止められ、ゆだねられる場所はどこか、と問う。そして、教育、宗教、社会の既成概念を超えていくものとして、地元長野の尋常浅間学校で開いた上々颱風のコンサートの模様を紹介された。

団塊世代の大量死を迎える近未来の私たちの課題として、過去の大量死と「メメント・モリ」(死を思え)を教訓とし、生老病死の四苦の緩和、解決に真正面から向き合う新しいムーヴメントを起こすことが求められている。「千の風になって」という詩が伝える再生の物語や詩人山尾三省さんの「源郷回帰」の思想を指針として、いのちが自然と共生していることを覚え、「四苦」から「支え」を発動しようと呼びかける。

高橋さんの活動は、チェルノブイリ原発事故被害者への医療支援やタイの寺院におけるHIV患者の施設支援など世界的広がりをもつが、地域に帰りたいという思いで始められた「神宮寺地域包括的ケアシステム」と「ケアタウン浅間温泉」の取り組みを紹介された。前者は生老病死のすべてに関わるトータルなコミュニティ・ケアとターミナルケアのシステムであり、後者は、小規模・多機能・地域密着型サービスをパーソン・センタードの方針で行う拠点となっている。「閉じる」から「開く」への取り組みは、具体的実践をもって熱く語られた。会場のみんなで口づさんだ上々颱風の余韻とともに講演は終わった。

ー参加者の声ー

猿山由美子さん（認知症の人と家族の会 代表）

学際的な取り組みに期待しています。また、ぜひ市民を巻き込んだものにしてほしい。そして、これからも現実の課題に即したテーマを取り上げていってほしい。私も、ぜひ福祉フォーラムの会員になります！

荒川林太郎さん（京都市社会福祉協議会・龍谷大学卒業生）

今日は、期待以上に元気をもらいました。自分自身が福祉分野に進んだ時の根っこの気持ちを思い出しました。一人ひとりの声にしっかり耳を傾けながら仕事をしている人たちの話を聞けて、とても良かったです。

第2部 シンポジウム 「福祉現場から、いのちを語る・まちを語る」

（午後3時～5時）

山口さん　高橋さん　海老さん

鈴木さん　周防さん　石井さん

コーディネーター
山口浩次さん（大津市社会福祉協議会）

▶「これからは『支える側』を『支える』取り組みも必要です。また、今後10年を見通した取り組みが不可欠です。」とシンポジウムを結ばれた。

シンポジスト　海老一郎さん（西成労働福祉センター）

「釜ヶ崎からいのち・くらしを語る」

▶釜ケ崎の日雇労働者の「いのち」と「くらし」を取り巻く実態を全体状況と、具体的な個々の労働者の姿を通して話された。今すべきことは何かをするどく問い、とくに現行制度を使い切る支援と、最低生活保障(ナショナル・ミニマム)の底上げを含む社会保障の拡充、そして利潤追求の調整弁としての労働ではなく、「人間らしい働き方のできる仕事」を保障していく必要を強調された。「私は逃げられない。一番底から世の中を見上げたとき、本質が見えてくる、とセンターに25年身をおいてやっと言えるようになった」と結ばれた。

シンポジスト　鈴木慎一郎さん（さつき福祉会）

「障がい者支援の現場から」

▶障がい者分野では、2006年4月の障害者自立支援法の施行に伴う自己負担の導入と事業形態の変化など深刻な変化への対応にてんやわんやである。「授産施設に働きに来てもらう給料より高い利用料を支払うのはなぜか」と、利用者はプライドを傷つけられ、生きる意欲を失いがちである。事例をあげて、高齢期に向かう障害者の不安や親亡き後の生活不安を示された。「『いのちを守る』だけでなく、その『いのちを太らせる』支援、つまり、充実した生を送り自己実現に近づく支援がしたい。それは、僕らも一緒の願いだ」と言われた。

シンポジスト　周防美智子さん（大津市子ども家庭相談室）

「子どもの育ちを守る」

▶大津市子ども家庭相談室の相談件数は年々増加傾向にあり、平成17年度には実に4000件を超えた。被虐待児童数は平成15年以降毎年20%の増で、なかでも育児放棄が半数以上を占めている。この現状をふまえ、私たちにできることは何かを考えていくためには、「子どもの権利条約」にある「父母の養育責任が遂行できるよう国が支援する」という条項をもとに、縦割りではなく、行政、民生委員、学校や地域の人々が協力し合い、地域が一体となって、子どもの育ちをみんなで守る意識が重要であると話された。「幼い子どもに、「あなたの存在を私たちは知っているよ」というメッセージを伝えていける相談室でありたい」と結ばれた。

シンポジスト　石井佐由里さん（神戸市本多聞高齢者介護支援センター）

「高齢者のくらしと介護」

▶本多聞高齢者介護支援センターは、今から9年前の1998年に、神戸市震災復興事業のシルバーハウジングの一部として開設された。石井さんは、担当のショートステイから震災後の在宅高齢者のくらしを見つめ、震災で人生が大きく変わられた方々が、今、認知症を発症したり、介護者の暴力や介護放棄など、新たな問題に直面しておられ、家族支援を含む緊急対応に追われていると現状を話された。「夜勤時の少ない職員体制などを考えると、職員の思いだけでは続かない。利用者のいのちの重さに身がふるえる」とも言われた。

第3部 交流会

（午後5時30分～6時30分）

ー参加者の声ー

田中勇亮さん（龍谷大学社会学部 学生）

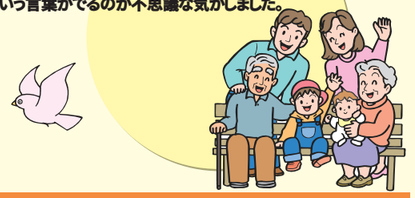
これまで「地域」のことは考えていたけれど、「いのち」までは意識していなかったことに気づきました。これから福祉分野に就職するに当たって、いのちのとらえ方をしっかり学べて本当によかったです。

五坪あすかさん（龍谷大学社会学部 学生）

基本は、やっぱり地域のつながりだと思いました。地域をおこしていくことの重要性を改めて感じました。お寺の住職の方から「地域」という言葉がでるのが不思議な気がしました。

山根宏美さん（龍谷大学社会学部 学生）

シンポジウムで現場の方のお話が聞けて本当によかったです。高橋さんの講演でお寺が地域で果たしている役割を聞いて、あのような社会福祉の形があるということに驚きました。



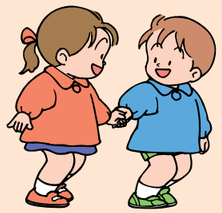
プレフォーラムについてのお知らせ　「子どもたちをどう守るか」
～ 今、私たちが考えなければならないこと、取り組まなければならないこと ～

日 時：2007年3月10日(土)・11日（日）
場 所：龍谷大学　瀬田学舎　2号館

1日目 講演会＆シンポジウム

【第1部】講演会（午後1時30分～2時45分）
「子どもの悲鳴が聞こえる～子どもたちの今～」

【第2部】シンポジウム（午後3時～5時30分）
「子育ち・子育てを支えるために
～現場からみえる子どもたちの『今』と『これから』～」



2日目 講義とワークショップ（午後1時30分～4時30分）

① 専門職向けワークショップ
「家族と子ども－その理解と支援－」
② 「地域での子どもの安全・見守り活動」
③ 「地域における子育て支援の取り組み」
④ 講義「子どもの発達を学ぶ」

○主催:龍谷大学福祉フォーラム　○後援:龍谷大学　人間・科学・宗教・オープン・リサーチ・センター